



記憶でつなぐ「まちなか」づくり

associate prof. Aya KUBOTA
Jiewon SONG(D1)
Masaaki ANDO(M2)
Aya MATSUMOTO(M2)
Reiko OGASAWARA(M1)
Hana KASHIWABARA(M1)
Takashi KOSHIMURA(M1)

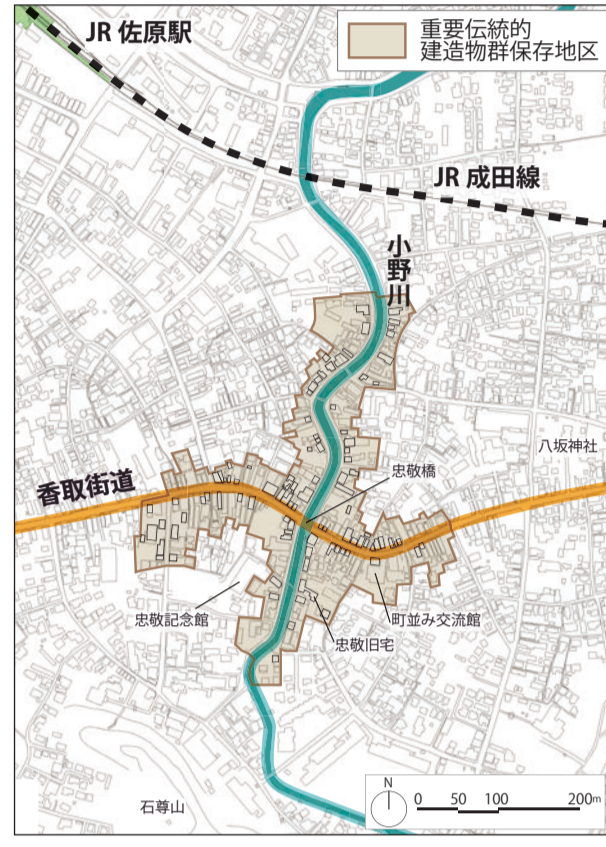
佐原プロジェクトの取り組み

観光地として注目される佐原
千葉県香取市佐原は「北総の小江戸」と呼ばれ、江戸期に利根川水運とともに商業の町として栄えた。1996年に関東初の重伝建(重要伝統的建造物群保存地区)に指定された歴史的町並みや、佐原の大祭(重要無形民俗文化財)を目当てに多くの観光客が訪れる観光地となっている。



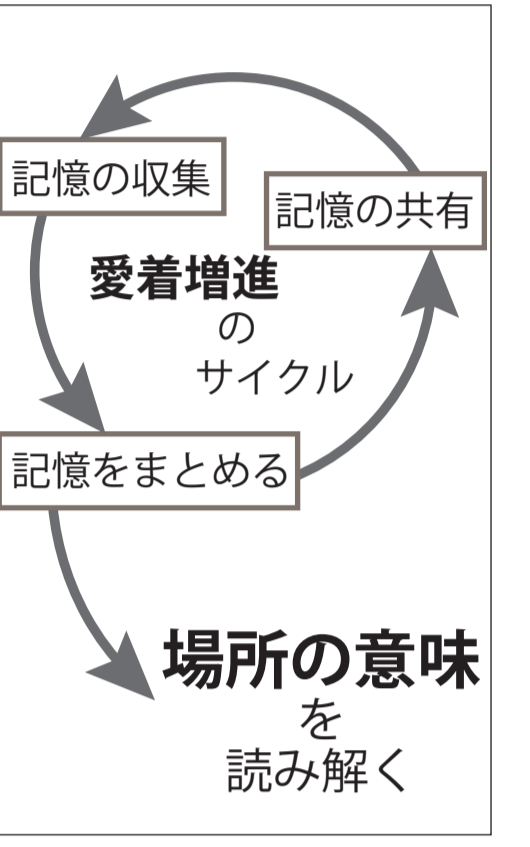
回遊性向上が課題

観光客の回遊は、街道と河川を軸とする重伝建指定範囲に限定される。本プロジェクトは、まち全体で来訪者を受け入れ観光の一極集中を緩和し、市街地を活性化させる「まちの回遊性の向上」に取り組んできた。



記憶から場所の意味を読み解く

2012年度は「回遊性向上」を意識しつつ、佐原のかつての賑わいや暮らしの様子を中心に人々の記憶を収集し、まとめ、それを共有する活動を行った。蓄積された記憶から「場所の意味」を読み解き、まちづくりに生かしていく狙いがある。

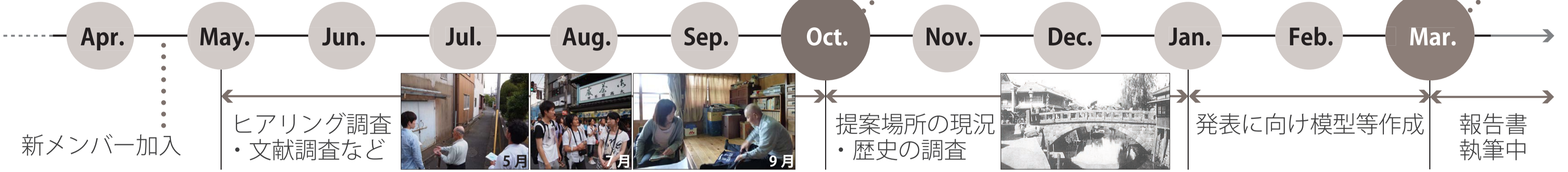


2012 年度活動カレンダー

さわら昭和の記憶と暮らし展...
秋の大祭に合わせ築90年以上の蔵をお借りして展示会を開催。



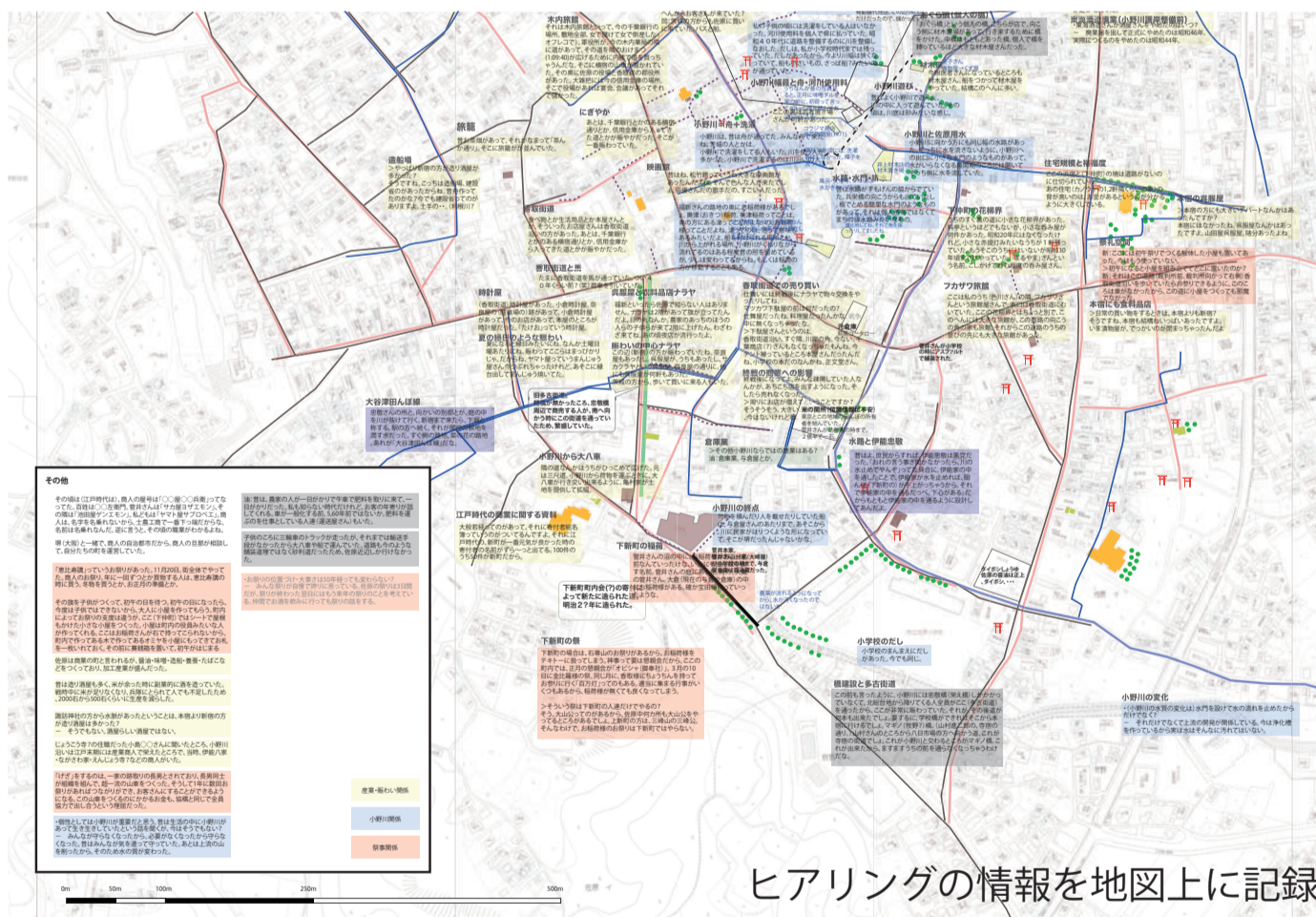
空家活用と橋詰空間の提案...
市役所で提案を発表し参加者から多くの意見を伺う。



1. 記憶を収集する・裏付ける

ヒアリング調査

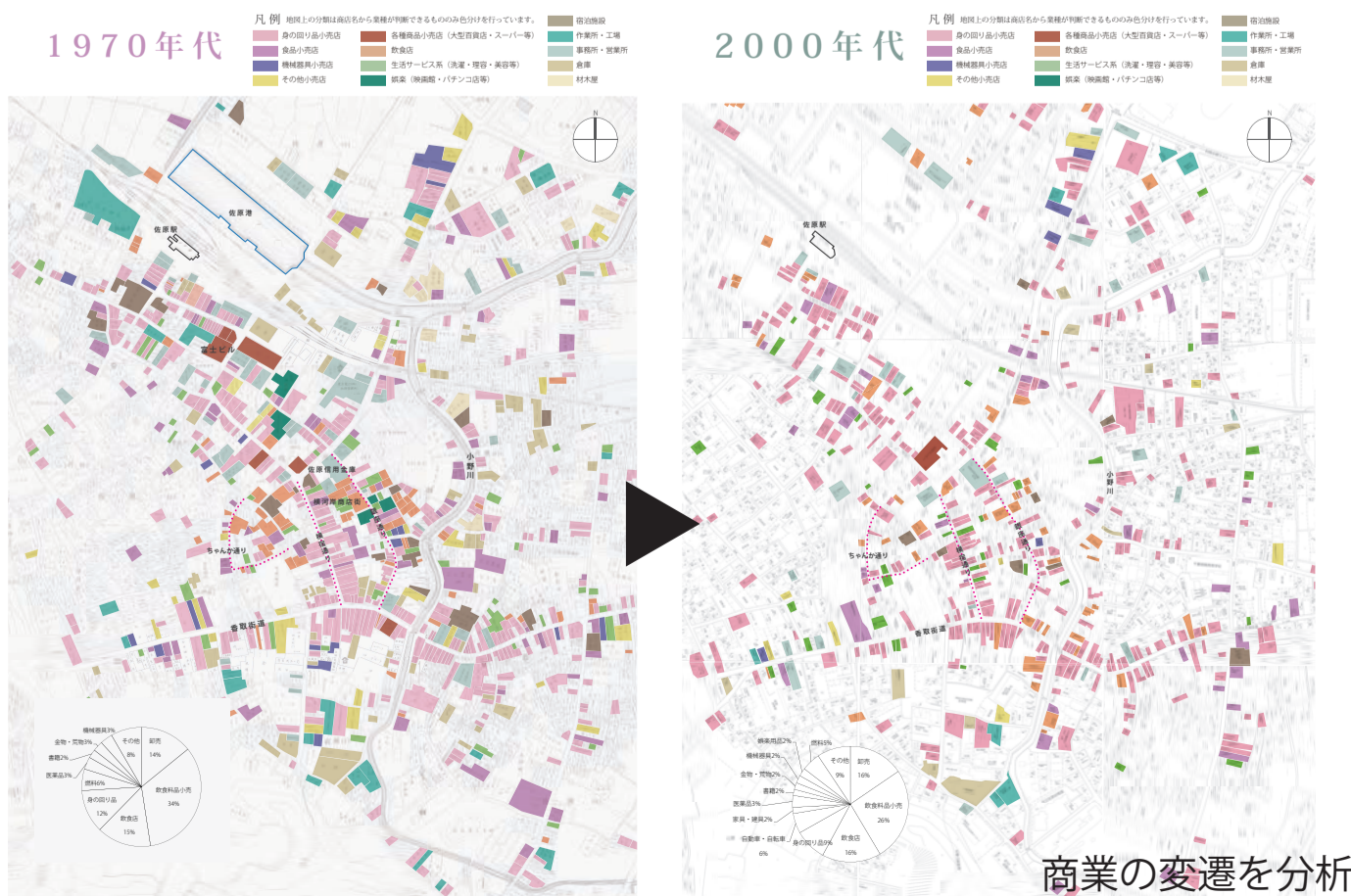
昭和初期の佐原を知る方々のもとにヒアリング調査に伺い、地図や古写真を見ながら記憶を語ってもらった。集めた情報は地図上に記録していった。



ヒアリングの情報を地図上に記録

歴史文献、商業の変遷を調査

収集した記憶を史実と対応させるため、市史等の歴史文献の調査を行ったほか、住宅地図で店舗の業種を分類し変遷を追った。各時代の記憶の背景となっている事柄をまとめていった。



商業の変遷を分析

2. 記憶を共有する

「さわら昭和の記憶と暮らし展」開催

それまでの調査成果を10月の秋の大祭に合わせ展示した。3日間で380人が訪れ、地元の人、観光客に佐原の記憶を伝えた。また、訪れた人同士が展示を契機に自らの記憶を共有する姿も見られた。



パネル展示の様子

古写真のスライドショーも実施



川沿いの記憶をまとめたパネル



まちなかの聞き書き地図

3. 記憶をまちづくりに生かす

空家の活用提案と橋詰の改修提案

川沿いの空家を地元の人のための拠点と位置づけ活用する提案と、中心部の橋の袂で歴史を継承しつつ必要な機能を整備する提案。前者では記憶を伝えていくプログラムを提案に入れ、後者では記憶から場所の意味を考察し提案の方針とした。



今後に向けて

市役所での提案発表には30名を超える人が訪れ、多くの意見を伺うことができた。地元の人がまちへの思い、価値基準を議論する契機となった。また、提案を行った空家は2013年10月頃から実際に利用しながら活用方法を検討していくことになる。